美濃より旅せんと思ひ浜の手一馳行き松永雲海坊が
館へ招きせ大吉揚げて中けるは年人佐々新藏
百十郎息女日吉姫阿部源之丞隠遁して能登へ
忍逃と九郎右衛門是を聞て山方へ流れよ
南時山形一流の剣術を義を公の命を背く者是を
異端とすべなれば踏込みて討果すべし
と左右相談十五人の若者大長刀を提げ蜂起し
大吉寺へ押寄せ九郎右衛門を討ん為
もの和尚鳥居峠へ入とぶ猟師と云を聞くに習和又
年人佐を深く恨て年来を得て浜中を
探り帰りさるべし幸番の者迎に不足なる者
といひて留てあり松永なを物なりとせて異儀なべ
事有相見と切てとんば事有相方と九郎右衛門
なきば七郎四郎佐藤治九郎を始めとして門弟切て
出で来たりと変を生じ遂を殺ひけるば松永方へ流
石二百人とは中せど終夜の働て中疲れけん又武
蔵守帰宅けん洗足をとりと寝こみる中